

# 子どもの感染 家庭で防ぐ

子どもの感染予防のポイント

- 家庭内で大人からうつる例が多い
- 乳児やぜんそくのある子らは重症化に注意
- 乳児は食欲不振、機嫌など変化を把握
- 呼吸が苦しい状態などは医療機関に連絡
- 風邪の症状があれば外出を控える
- 物に触れた時や飲食前などこまめに手洗い
- 十分な睡眠と栄養をとる
- 適度な運動でストレスをためない

県内の10歳未満の感染者は、4月9日、12日に加東健康福祉事務所管内(北播磨)の男児の感染を相次いで確認。14日には神戸市が男児2人を発表し、同日に伊丹健康福祉事務所管内(伊丹、川西市、猪名川町)の未就学女児、15日に加古川市の男児の感染が分かった。10代の感染者も3月は1人だったが、4月は23人(22日時点)に急増。全感染者に対する割合は10歳未満が1・1%、10代は4・3%だった。日本小児科学会によると、子どもは感染した大人から家庭内でうつる例が多いといい、県内の事例でも家庭内での感染が疑われる。

## 親経由？ 10代以下、県内で急増

4月に入り、兵庫県内で新型コロナウイルスの感染が10代や10歳未満に広がり始めている。22日時点で10代が24人、10歳未満が6人。成人に比べ割合は少なく、重症化のリスクも低いとされるが、日本小児科学会によると、乳児や持病のある子どもは注意が必要という。神戸市小児科医会会長の二宮道人医師(72)は「家族で規則正しい生活と手洗いの習慣化を」と呼び掛ける。(井川朋宏)

子どもの感染は無症状や軽症が多く、重症化する割合はかなり低いが、日本小児科学会は「呼吸状態が悪くなることもあり、乳児や小児ぜんそくなど持病がある子どもは注意が必要」としている。

さらに「体温37・5度以上が4日続く」といった新

## こまめに手洗い ■ 屋外の遊びもOK

型コロナの感染疑いの基準は、子どもの多くの風邪が該当。息苦しさそうな場合などは医療機関に連絡し、診察を受ける必要があるという。二宮医師は「乳児なら発熱や食欲不振、不機嫌で泣きやまない、といったサインを見逃さないことも重要」と指摘する。

日常生活について、同会は「他人との接触を避ければ屋外での遊びはリスクが低い」とするが、風邪症状があれば外出を控え、人がよく触れる場所を触った後や、飲食前の手洗いを推奨する。二宮医師は「十分な睡眠と栄養をとり、散歩など適度な運動でストレスをためず、抵抗力を落とさないようにしてほしい」と話している。



名前【  】

①4月に入り、兵庫県内で子どもの感染が広がっていますが、22日現在で何人の感染が確認されていますか。

10代  人、10才未満  人

②子どもはどこでうつる例が多いですか。

感染した大人から  人でうつる例が多い

③子どもは重症化する割合が低いですが、注意が必要なのはどのような人ですか。

や、小児ぜんそくなど持病がある子ども

④家庭内であなたは、これからどんなことに気をつけますか。